

# あおぞら

第43号



## 医療理念

1. 医療の原点に立った心温まる医療  
【Humanism】
2. 高度医療の提供  
【High Level】
3. 職員一同連携し仕事を通じての  
人間的成長 【High Growth】

## 目次

ごあいさつ	2
就任のごあいさつ	3
心臓血管外科・循環器内科 地域連携講演会	4
永年勤続表彰紹介	6
NEW FACE 医師	7
新人歓迎会	7
外来週間診療予定表	8

医療法人

# ごあいさつ

病院長  
岡田 和也



この度、広報誌「あおぞら」第43号が完成いたしましたのでお届けいたします。

当院は1979年腎臓病、消化器、循環器を三本の柱とした内科専門病院として開院し、再来年創立40周年を迎えようとしています。この間、外科や泌尿器科、心臓血管外科などが新設され、2012年には南棟新館が完成しハイブリッド手術室の新設や糖尿病センターの拡充などが行われました。また、2016年より地域包括ケア病床30床が導入され「ポストアキュート」、「サブアキュート」そして「レスパイト入院」を受け入れる病床としての機能を果たすことができるようになりました。

近年における高齢社会の到来とともに、様々な疾患において急性期と維持期における診療間の連携が一層重要視されてきています。「新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会報告書」にも記されているように、医療が医療従事者だけで完結する時代は終わりを告げ、患者さんや地域の住民の方々との協働が不可欠な時代になりました。医療・介護・福祉がフラットに連携しながら、予防・治療から看取りに至るまで、患者さんやご家族のQOLを継続的に向上させるよう努めなければならぬと考えています。

当院は、長崎市ならびに西彼地区における急性期病院の一つとして多くの急性期の患者さんを受け入れるとともに、地域包括ケア病床を活用することにより急性期治療を終えた患者さんや一時的に病状が悪化した患者さんの受け皿となり、少しでも地域医療に貢献できればと考えております。これからも時代の変化に滑らかに対応しつつ、患者さんを中心とした安心・安全で、質の高い効率的な医療の提供に努める所存です。当院が培ってきた当院ならではの特徴・専門性をさらに高め、患者さんや地域の先生方の様々なニーズに的確かつ柔軟に対応できる体制を整えていきたいと考えておりますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



# 就任のごあいさつ

6月より副院長を拝命致しました。長崎みなとメディカルセンター市民病院より異動してきて3年が過ぎました。これまで、地域の中で当院の特徴を活かして、役割を果たせるように努力して参りました。これからも消化器内科医としての知識を深め、内視鏡の技術も磨きながら、病院全体のことについても目を向けていきたいと思っております。職員全員が活力を持って医療に従事できることが、地域のみなさんのお役に立つために重要ですので、創意工夫を惜しまず、大坪理事長や岡田病院長、諸先輩方のご指導を賜りながら、病院の発展に貢献できるように邁進していく覚悟です。どうぞよろしくお願い致します。



副院長(消化器内科)  
**福田 康弘**

この度、副院長を拝命いたしました蒲原啓司と申します。私は、医師免許取得後、直ちに心臓血管外科医として診療の世界に飛び込み、早いもので今年25年目となります。その間、3年程、臨床業務から離れた時期はありましたが、基本的には実臨床の場で心臓血管疾患を抱える患者さんへの外科治療が私の本分でありました。

2015年4月に心臓血管外科部長として光晴会病院に赴任当初も、心臓血管領域における診断、治療の面で、進歩に遅れぬ知識の蓄積と外科手技の向上に日々精進することが自分の任務であり喜びでありました。そんな中、長崎北部地区の患者さんへの診療とご紹介頂く先生方との連携を通して地域医療の重要性を実感し自分にできる役割は何かを考えるようになりました。現在は、微力ながら機会があれば地域の方々への医療講演を通して、心臓血管疾患の最新、最適な診断、治療を紹介することはもちろんのこと予防に関する啓蒙活動を行うことが自分のもう一つの役割と信じ積極的に取り組んでおります。

そのような折に、今回、長崎北部の地域医療を担う中核病院である光晴会病院の副院長という重要な役目を与えられ身の引き締まる思いです。今後は、現行の仕事を全うすることはもちろんのこと、新たな活動を通して病院発展に一層の努力をし、地域医療に貢献できるよう精進してまいりたいと思っておりますのでご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



副院長(心臓血管外科)  
**蒲原 啓司**

# 心臓血管外科・循環器内科 地域連携講演会

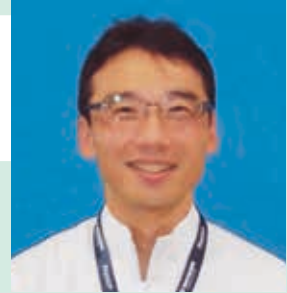
## Door to Balloon時間短縮努力について

座長

戸田内科 戸田 源二 先生

演者

循環器内科 武野 正義



### 講演内容

急性心筋梗塞(AMI)に対してカテーテル治療(Percutaneous Coronary Intervention: PCI)が行われますが責任血管をより早く再灌流させることはAMI患者の予後改善につながります。これまでの多くの研究でDoor to balloon時間の短縮はAMI死亡率を減らすことが示されてきました。我が国の保険においてもAMIに対するPCI算定にはDoor to Balloon時間90分以内という条件が付けられています。

当院で治療を行いました最近2年のAMI患者(128人)についてDoor to balloon時間を調べ、Door to balloon時間が長くなる要因を検討しました。

当院のDoor to balloon時間は中央値63.5分と全国の施設と比べて遜色のないものでした。コメディカルも含めたスタッフの努力がうかがい知れます。しかし、その中で20%のAMI患者はDoor to balloon時間90分を超えていました。これらの患者に多く見られたのは『循環器内科以外の初期対応』、『胸痛がないあるいは

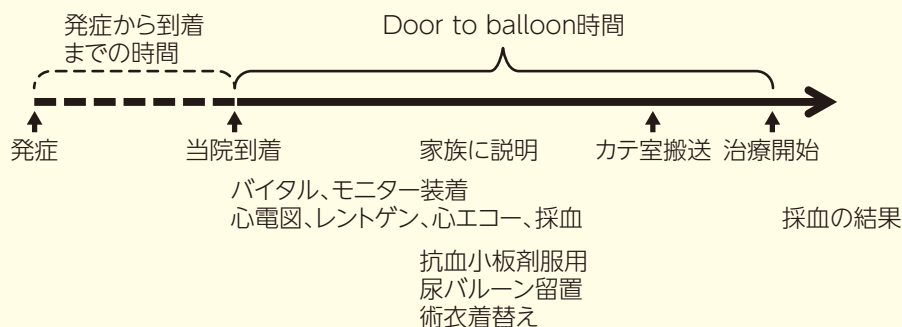
不明』、『意識障害』、『喘鳴(心不全)』、『背部痛』、『心電図ST上昇がない』であることが分かりました。

したがってさらなるDoor to balloon時間短縮のためには的確にしかも迅速にAMI診断を行えるかが重要であり、胸痛がなくST上昇がない患者に対して詳細な病歴、動脈硬化危険因子の把握、ST上昇に頼らない心電図変化(ST低下やT波の変化、左脚ブロック)の出現に注意する必要があると考えられます。初期対応をしてくれる循環器内科以外の医師からの素早い引継ぎ、その後の効果的なフィードバックも重要です。

### 質疑応答

胸痛がなくST上昇がない患者でAMIと診断する決め手は何ですか？

回答 ▶やはり心電図です。わずかなST低下や陰性T波などを見逃さないことが大切だと思います。以前の心電図があれば紹介状に添付していただくと助かります。



5月12日(金)長崎ロイヤルチェスターホテルにおいて、『**心臓血管外科・循環器内科 地域連携講演会**』がおこなわれました。地域の先生方にご参加頂きありがとうございました。当日行われた講演をご紹介します。

Q AMI初期に抗血小板剤と抗凝固薬はどちらが優先されますか？

回答 ▶ 抗血小板剤はステント留置を前提に考えているから投与します。急性心筋梗塞の病態を考えると抗凝固薬、つまりヘパリンを投与することが優先されます。

Q 心房細動など抗凝固薬をすでに服用している患者ではステント治療の際の抗血小板剤をどのようにしていますか？

回答 ▶ 最近、3剤併用の出血リスクが知られるようになってきました。当院では抗凝固薬がすでに投与されている患者さんにはアスピリンは開始せずにプラスグレルあるいはクロピドグレルのどちらかを併用することが多くなってきました。

## 当院での静脈瘤外来開設と 血管内治療の初期成績

座長

長崎血管外科クリニック 多田 誠一 先生

演者

心臓血管外科 高木 淳



### 講演内容

下肢静脈瘤とは、足の静脈が血液のうっ滞によって瘤状に拡張したもので、こむら返りや疼痛・だるさ・皮膚炎など様々な症状を呈します。原因は多岐にわたりますが、血管内治療も含めた外科的加療の対象となるものは、大伏在静脈や小伏在静脈といった表在静脈の弁機能不全(逆流)によるものがほとんどです。下肢静脈瘤は日常的によく見かける疾患であり、日本における推定患者数は1000万人に上ると言われています。

静脈瘤は、うっ滞性皮膚炎などを合併した重症例において通常外科的加療の適応となります。これまでは、ストリッピング手術などの観血的手術(皮膚を切開する手術)が一般的でしたが、治療の進歩によって現在は血管内治療(レーザーや高周波を用いた皮膚を切開しない手術)が主流となりつつあります。血管内治療は、疼痛などの合併症が少なく、治療効果もこれまでの手術に劣らない成績で、しかも外来手

術(当院では入院手術)も可能な治療方法です。患者への身体的負担の少ない治療方法で、当院では2016年1月より専門外来開設とともに、手術加療を含めた診療を開始しています。

2017年4月現在、当科で手術加療した静脈瘤患者は42例あり、術後翌日・1週間後・1か月後・1年後に血管エコーにて血栓症の有無や再発の有無など評価しております。術翌日、2例(4.5%)に疼痛による鎮痛剤服用はありましたが改善し、その他の症例では疼痛の持続はありませんでした。また、術後1年目までの経過では再発は1例もなく、治療成績は良好でした。

毎月第1・3・5火曜日午後を静脈瘤専門外来日とし、第2・4火曜日午後を手術日として診療を行っております。下肢の静脈瘤でご不明な点がありましたら、お気軽に当科外来までお問い合わせいただきますようお願いいたします。

# 永年勤続表彰紹介

当院では、毎年『永年勤続表彰』を行っています。対象は10年・15年・20年と長きにわたり当院を支えてくれる職員となります。

そこで今回は、今年度の『永年勤続表彰』職員をご紹介します。

「医療の原点に立った心温まる医療・高度医療の提供・職員一同連携し仕事を通じての人的成長」の理念をもとに今後ともよろしくお願ひします。

右も左もわからず、先輩のあとをついて歩くのが精いっぱいでした。

世間知らずの私を公私ともにご指導いただき勤続20年目を迎えることができました。

今後も、患者さんのための病院をめざし貢献していきたいと思ひます。

(医事課: 尾上 友紀)

あつという間の10年でしたが、周りの人たちに助けられ、なんとかここまでこれました。

今後も精いっぱいがんばります。

(臨床検査科: 山口 貴史)

10年間という長い間勤めさせていただくことができたのも、支えて下さったスタッフの皆様のおかげと感謝しています。これからも病院のために微力ながらがんばりたいと思ひます。

(医事課: 中尾 美穂)

入社以来、仕事や付き合いの場で数えきれないほど多くの人たちと出会いました。

上司や先輩、同僚や後輩のたくさんの人たちから多くのことを学び、様々な経験をさせてもらいました。これからも人との絆を大切に、新しい出会いに期待して、仕事にがんばっていきます。

(血液透析室: 石川 みどり)

光晴会病院に入って20年の月日が経ちました。色々な方と出会い、色々な事を学びそして人としても大きく成長した20年でした。これからも光晴会病院に貢献できるようがんばっていきます。

(外来: 矢野 道子)

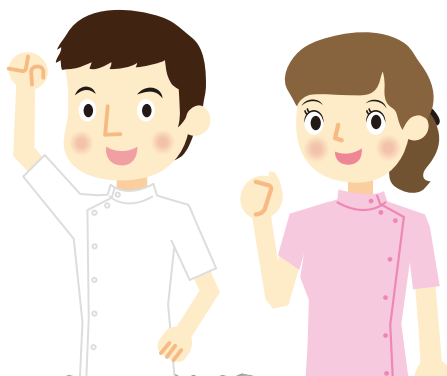
これまで看護師を続けてこれたのは指導し育ててくれた先輩方と支えてくれた同僚のおかげです。今後も多くの人たちとの絆を大切にして仕事に精進していきたいと思ひます。

(南5階病棟: 福田 康恵)

子育てを終え、10年を超えるブランクで不安いっぱい復職しました。上司や同僚、そして家族に支えられ、学びながら、思い出しながら15年間の経験でした。

成果より失敗が多かったように思ひます。これからも、医療知識を持った生活支援者として、退職を迎えるその日まで役割を果たしていきます。

(外来: 竹下 良子)





①氏名 ②診療科 ③学会等資格  
④出身地 ⑤趣味・特技 ⑥自己PR

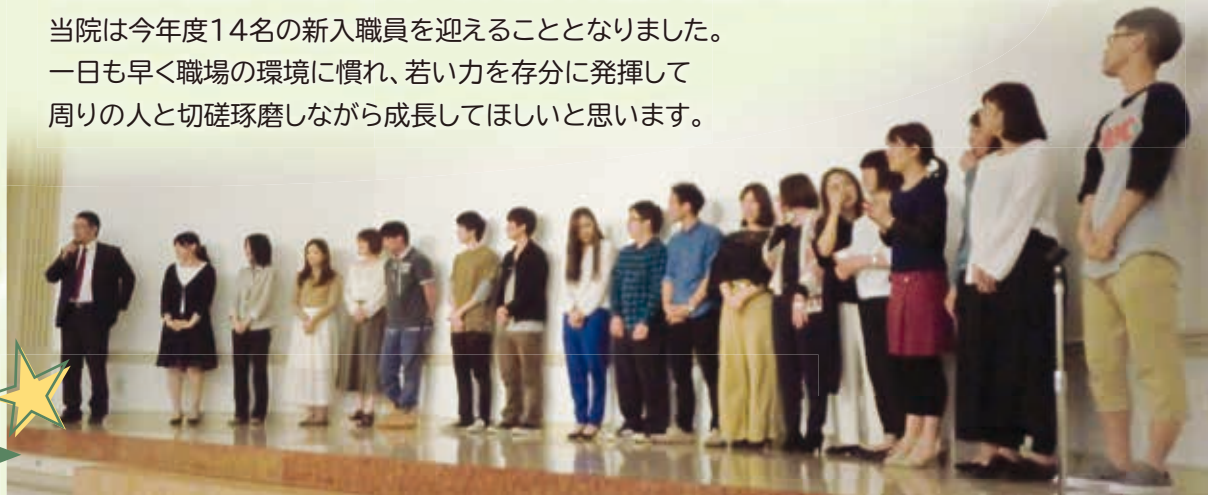
## 医師



- ①赤星 浩(アカホシ ヒロシ)
- ②消化器内科
- ③日本内科学会総合内科専門医  
日本肝臓学会肝臓専門医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
医学博士
- ④長崎市
- ⑤趣味:音楽鑑賞
- ⑥内視鏡治療は一見低侵襲ですが、危険と隣り合わせです。安全第一を心がけて頑張りたいと思います。

## 新人歓迎会

5月26日、長崎ロイヤルチェスターホテルにて平成29年度新人歓迎会が執り行われました。当院は今年度14名の新入職員を迎えることとなりました。一日も早く職場の環境に慣れ、若い力を存分に発揮して周りの人と切磋琢磨しながら成長してほしいと思います。



# 外来週間診療予定表

土曜日は基本、内科は休診ですが緊急のみ当番制で対応します

平成 29 年 6 月 2 日現在

		月	火	水	木	金	土
内科	3 診	田浦直太 (消化器)	原口雅史 (消化器)	吉岡正人 (一般内科)	原口雅史 (消化器)	柴田雄一 (一般内科)	心療内科 (午前) 不定期休み
		福田康弘 (消化器)					
	4 診	宮崎健一 (腎臓・一般内科)	柴田龍二郎 (腎臓・一般内科)	福田康弘 (消化器)	大坪俊夫 (腎臓・膠原病)	柴田龍二郎 (腎臓・一般内科)	
		河野仁寿 (呼吸器)	森川伸雄 (呼吸器)	河野仁寿 (呼吸器)	森川伸雄 (呼吸器)	河野仁寿 (呼吸器)	
6 診	和泉元衛 (甲状腺・肥満)	あかほし ひろし 赤星 浩 (消化器)	柴田雄一 (一般内科)	あかほし ひろし 赤星 浩 (消化器)	和泉元衛 (甲状腺・肥満)	和泉元衛 (甲状腺・肥満)	
循環器 内科	7 診	武野正義	石崎正彦	やなぎ た よう こ 柳田葉子	武野正義	石崎正彦	
心臓血 管外科	8 診	(新患紹介) 蒲原啓司	(新患紹介) 高木 淳	(新患紹介) 高木 淳	(新患紹介) 古賀秀剛	蒲原啓司	古賀秀剛
泌尿 器科	9 診	山下修史	堀 建夫	山下修史	大学医	堀 建夫	緊急症例のみ
外科	10 診	岡田和也	岡田和也	大学医	進 誠也	川上俊介	隔週 岡田和也 川上俊介
	11 診	岸川博紀	いけ べ あやか 池辺 絢	岸川博紀	岸川博紀	吉本浩 (形成外科)	
						進 誠也 (おなかのヘルニア) (脱腸) 専門外来	
【午後】 14:00 ↓ 16:00	3 診			吉岡正人 (一般内科)	吉岡正人 (一般内科)		
	4 診		大坪俊夫 (CKD 専門)				
	8 診		第 1.3.5 週 13:00 ~ 15:00 高木 淳 (下肢静脈瘤専門)				
糖尿病センター 9:00 ~ 12:00		赤澤昭一 ありもりはるか 有森春香 フットケア	赤澤昭一 世羅康徳 フットケア	赤澤昭一 世羅康徳 フットケア	赤澤昭一 世羅康徳 フットケア	赤澤昭一 世羅康徳 フットケア	

◎大坪医師の火曜日午後は腎臓病疾患専門外来です

※ 診 療 科 目：内科・外科・泌尿器科・循環器科・心臓血管外科・消化器科・神経内科・リウマチ科・リハビリテーション科・呼吸器科・腎臓内科・形成外科・麻酔科・肛門外科・糖尿病内科

※ 診療受付時間：午前 8：30 より 午前 11：30 まで ※ 予約制ですので、できるだけ予約をお願い致します。

光晴会病院 地域医療連携室 TEL 095-857-3563 (直通) FAX 0120-573-632 (直通)

(コミュニケーションマガジン) 編集委員

編集・発行責任者：岡田 和也

編集スタッフ：平瀬 (地域医療連携室) 尾上 (医事課)

平尾 (クラーク課) 吉野 (臨床検査科)

和田 (南 5 階) 久保田 (南 4 階)

医療法人 光晴会病院

〒 852-8053 長崎市葉山 1 丁目 3 番 12 号

TEL 095-857-3533 FAX 095-857-2572

http://www.kouseikai.org/